

コロナ禍後の社会変化と期待される イノベーション像

岸本 喜久雄(Kishimoto, Kikuo)

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
技術戦略研究センター センター長

【要旨】

2019年11月に発生した新型コロナウイルス(COVID-19)感染症は世界的な大流行となり、甚大な影響を人々にもたらした。そして、私たちに感染を予防しながら経済活動を続ける「新しい社会様式」の実現を迫った。昨今のデジタル革命やグローバル化の進展によりイノベーション創出のスピードが加速され、そのさなかで生じた新型コロナウイルスの感染拡大は、AI やリモート技術をはじめとした様々な技術開発の更なる進化をしている。例えばコロナ禍のニューノーマルとして、人の密集を避けるためのテレオペレーションとしてのリモート化と、自律化技術としてのオートミーを、AI によってスマートに融合する「スマートテレオートミー」という技術開発の重要性を、NEDO 技術戦略研究センターでは提唱している。本講演では、こうしたコロナ禍後に期待される社会変革の方向性や、今後の展望について議論する。